

市長施政方針

(はじめに)

昨年は、先の皇太子徳仁（なるひと）親王殿下が5月1日に御即位され、令和の御代がスタートするという、大きなひとつの時代の節目がございました。

約30年に及ぶ平成時代を振り返ると、バブル経済の終焉、米国での同時多発テロの発生、阪神淡路大震災・東日本大震災など、様々な出来事がございました。

本市における平成時代の最も大きな出来事は、やはり平成16年11月1日の4町合併による江田島市の発足であろうと思います。

その後、オリーブ栽培の振興や市内全域への光回線の敷設、体験型修学旅行の受け入れなど、様々な新たな取組を進めてまいりました。

また、子育て支援施設や旅客ターミナル、市役所・消防庁舎など、まちの基盤を支える施設の整備、さらには、地域活動や事業活動への支援や地域おこし協力隊の登用など、まちに新たなうねりを産み出す取組を進めてまいりました。

結果として、近年は、テレビや雑誌などのローカルメディアで本市の明るい話題が紹介されることが増えていると感じております。

令和の御代においても、将来を見据えた変革を絶え間なく進めていくとともに、美しい自然や豊かな農水産物、歴史的な遺構など、脈々と受け継がれてきた本市の恵みや伝統を大切に、暮らしやすくワクワクする江田島市を次世代に引き継いでいかなければならないと、決意を新たにすることとございます。

さて、昨年末に厚生労働省が公表した人口動態統計の推計値によれば、今年の年間出生数は過去最少の約86万人になる見通しとされました。

これに対し死亡数は約137万人であり、実に約51万人もの自然減が見込まれているところでございます。

本市においても、1月1日現在の人口は、平成31年の2万3,501人に対し、令和2年は569人減の2万2,932人となっております。

この569人の内訳は、出生と死亡の差引である自然増減は351人の減、転入と転出の差引である社会増減は218人の減であり、人口問題は、本市にとって最大の課題であり続けております。

甚大な被害を受けた平成30年7月豪雨の災害復旧は未だ道半ばであり、最優先で取り組むべき課題でございます。

それに加え、人口問題に対応し、将来に渡って元気で活力のある江田島市を築くための取組は、同時に進めていく必要がございます。

昨年12月に公表された、国の「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」や、広島県の「県政運営の基本方針2020」では、デジタル技術の活用による暮らしの変革の促進や、社会で活躍する人材づくりなどが大きな柱に据えられております。

本市においても、こうした時代の潮流を見据えながら、明るい未来を産み出すための仕組をしっかりと創り出していかなければなりません。

新たな「令和」という元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているとのことをごさいます。

本市においても、新たな時代は、「江田島市をよりよいまちにしたい」という心を持つ内外の多様な人々と力を合わせつつ、活力があり明るい未来を描くことができるまち江田島市を築いてまいります。

(予算編成方針)

令和2年度の一般会計の予算規模は約158億円、前年度と比較して約14億円の減少となりました。しかしながら、歳入内訳では、人口減少により市税は約6千万円の減少、合併特例加算の終了により地方交付税は約7千万円の減少となっております。

歳出においては、平成30年7月豪雨災害の復旧に、前年度繰越額も含め約9億8千万円を投じることとしており、令和2年度の予算編成は、特定目的基金の取崩しを含め約17億2千万円の基金繰入金を計上するという大変厳しいものとなっております。

今後を俯瞰いたしましても、歳入増加につながる要素に乏しいことから、効果の高いものへと施策の絞り込みを行わざるを得ない状況となりつつあります。

しかしながら、人口減少傾向の改善は、待ったなしの本市の最重要課題でございます。

令和2年度予算では、平成30年7月豪雨災害の早期復旧に引き続き全力で取り組むとともに、私の市政運営のテーマである「住む人も、訪れる人も『ワクワクできる島』えたじま」づくりに向け、引き続き、「しごとの創出」「子育てしやすい環境づくり」及び「健康寿命の延伸」の3つを重点テーマとして掲げ、本市の活力づくりに取り組んでまいります。

それでは、まず、平成30年7月豪雨災害の早期復旧についてでございます。

令和2年度においては、災害復旧等に関する予算として、前年度からの繰越分を含め、総額約13億6千万円を執行いたします。

その内訳は、ハード面の災害復旧費として、一般会計及び企業会計において約9億8千万円、急傾斜地崩壊対策事業や大原ポンプ場沈砂池堆積土浚渫工事などの災害関連経費として約3億8千万円というものでございます。

これにより、平成30年度以降、災害復旧費と災害関連経費は、3か年の総額で約48億3千万円を計上したこととなります。

全国的な大規模災害の発生や建設需要の高まりによる入札不調などの阻害要因はありますものの、最大限早期に災害前の暮らしを取り戻すとともに、災害に強いまちを築くべく、取組を進めてまいります。

続きまして、重点テーマであります「しごとの創出」、「子育てしやすい環境づくり」及び「健康寿命の延伸」についてでございます。

まず、1点目の「しごとの創出」についてでございます。

観光を産業として位置付け、民間事業者が運営する長瀬海岸付近の新ホテルの建設支援

や駐車場整備等を実施いたします。

また、これまで、観光戦略チーム「一步」が積み重ねてきた議論や取組のひとつの成果として、「えたじまものがたり博覧会」という体験型観光プログラムを提供するイベントを開催いたします。また、令和2年10月からJRグループが展開する観光キャンペーン「せとうち広島デスティネーションキャンペーン」を活用した販売促進活動を実施いたします。

これらにより、市内の観光コンテンツの充実を図りつつ、観光客の誘引及び消費行動の誘発を促進してまいります。

また、「しごとの場創出事業」において、企業のサテライトオフィスの誘致を図るとともに、起業や新分野進出、特産品開発など、市内事業者を支援する「江田島市がんばりすと応援事業」を引き続き実施し、新たなビジネス展開の創出などによる「しごと」の活性化を図ってまいります。

また、新規就農者による農業用ハウス設備等の整備などの支援や、稚魚の集中放流や魚の増殖場の整備による漁業資源の増進、新たな特産品として認知が高まりつつあるオリーブの振興、有害鳥獣の防除などにより、第1次産業の振興を図ってまいります。

本市の転出超過の最も大きな要因は、「しごと」を理由とするものであることに変わりはありません。就労世代が居住地を選択する際は、「しごと」の場の所在地が大きな判断要素となるであろうことは容易に予想できるところでございます。

「しごとの創出」は、人口減少傾向の改善を図るための一丁目一番地であるとの思いのもと取組を進めてまいります。

次に、2点目の「子育てしやすい環境づくり」についてでございます。

妊娠期、出産期における支援として、妊婦の方に対する健康診査交通費等助成に加え、新たに、専門家のアドバイスなどを受けることができる「妊産婦支援事業」を創設し、安心して出産や育児に臨むためのサポートを実施いたします。

また、幼少期の子育てを応援するため、子育て世代包括支援センター周辺に、遊具を備えた広場等を整備するとともに、会員相互で子どもの一時預かり等を行う「ファミリーサポートセンター」の開設に向けた人材育成、さらには、病児・病後児保育の実施などに取り組むことにより、快適で健やかな子育て環境の充実や、子育てに係る負担の軽減を図ってまいります。

また、児童生徒に対しては、小学校のトイレの洋式化や、小中学生を対象に新たに学力調査を実施するなど、ハード・ソフト両面において、よりよい教育環境を整えてまいります。また、「さとうみ科学館」における「里海学習」や、小中学校が実施する地域学習への支援など、本市ならではの特色ある教育活動を展開することにより、地域のことを知り、地域に愛着を持つ子どもを育ててまいります。

人口減少社会においては、子どもは本市のみならず、我が国全体にとっての宝でございます。未来を担う子どもたちが、明るく健やかに育ち、郷土でしっかりと学び、広く活躍する力を持つ人材として成長できるよう、子育て環境を整えてまいります。

次に、3点目の「健康寿命の延伸」についてでございます。

市民の皆様が、本市で健康な暮らしを営むことができるよう、引き続き、がん検診の受診勧奨や、高齢者へのインフルエンザ等の予防接種費用の支援などを実施し、疾病の予防や早期発見・早期治療を促進してまいります。

また、生活習慣病の早期発見や重症化を予防するために健診事業を実施するほか、健康相談や健康教育、運動の必要性を普及する人材の育成に取り組んでまいります。

また、住民主体の通いの場への参加活動に対するマイレージポイントの付与や、体力測定データ等の分析による地域包括ケアシステムの質の向上についても引き続き取り組んでまいります。

さらには、住民主体の通いの場などにおいて、高齢者の皆様への保健事業と介護予防の取組を一体的に実施することにより、虚弱（フレイル）予防や介護予防を更に推進してまいります。

これらの施策により、高齢者の皆様がいくつになっても、元気で地域での日常生活を送るためのサポートを実施してまいります。

また、高齢者の皆様の知識技能を活かし、地域で活躍して頂くために、老人クラブやシルバー人材センターの活動を引き続き支援してまいります。

地域で安心して心豊かに暮らすためには、自らも、そして周囲の方も健康であることが重要でございます。本市に暮らす市民の皆様が、元気で輝きながら生活を送ることができる健康寿命の延伸に引き続き取り組んでまいります。

令和2年度予算は、厳しさを増す財政状況下にあつて、平成30年7月豪雨災害からの復旧と、未来に向けた暮らしやすいまちづくりを両立させていく必要がございます。

今回の予算編成においては、子育て世代のサポートや、住民主体の活動への支援、外国人市民への情報提供、文化の振興など、市民の皆様の暮らしにしっかりと目配りし、今後のために仕組を整えておくべき施策を盛り込むべく工夫をいたしております。

従つて、今回の予算は、『あたたかな暮らしを築く予算』とすることができると考えております。

(令和2年度当初予算の概要)

令和2年度の当初予算は、一般会計が前年度と比べ「14億6千5百万円」8.5%減の158億2千万円といたしました。

また、特別会計は9会計で、前年度と比べ「3億70万円」増の80億1千9百万円、企業会計は2会計で、前年度と比べ「3億9千万円」12.9%増の34億9百万円といたしました。

企業会計を含む総予算規模は272億4千8百万円で、前年度比3.8%の減でございます。

一般会計の内容を歳入から見ますと、市税は、納税義務者数の減による個人市民税の減少、土地評価額の下方修正による固定資産税の減少などにより、前年度と比べ6千1百万円（▲2.4%）の減でございます。

地方交付税のうち普通交付税は、昨年度で合併特例加算が終了となりました。

地域振興費やその他の教育費など基準財政需要額の算定見直しなどを考慮し、前年度と

比べ、1億円(▲1.8%)の減を見込んでおります。

国庫支出金は、国庫負担金で、災害復旧費国庫負担金の減少などにより、2億4百万円(▲14.1%)の減、県支出金は、県委託金で、参議院議員選挙費委託金の減により3千1百万円(▲3.8%)の減としております。

市債は、消防庁舎建設事業の完了、認定こども園のうみ整備事業、公共施設再編整備事業などの減少により、前年度と比べ15億7千万円(▲46.2%)の減としております。

なお、先程も申し上げましたとおり、財源調整として、前年度と同様、基金の取り崩しを行っており、今回の予算では、財政調整基金から16億6千万円を見込んでおります。

一般会計におけるプライマリーバランスは黒字となり、令和2年度末の市債残高は、令和元年度末に比べ、1億6千2百万円減少する見込みでございます。

歳出におきましては、義務的経費は、会計年度任用職員制度の創設に伴う報酬、給料、手当等、共済費などの増により人件費が増加し、市債の借入増に伴う元金償還金の増による公債費の増加により、全体で1億6千5百万円(2.3%)の増としております。

投資的経費については、平成30年7月豪雨災害に伴う災害復旧費が減少したほか、社会資本整備総合交付金等の国・県補助金を活用した、漁港機能保全工事、道路維持・道路改良事業に伴う、補助事業が6千7百万円(▲13.1%)の減、港湾建設事業県負担金などの増加による県営事業負担金が1億4千9百万円(71.4%)の増としております。

また、単独事業は、継続費事業で実施している消防庁舎及び能美出張所建設工事の完了などにより、19億4千8百万円(▲64.9%)の減となり、全体で19億5千7百万円(▲45.8%)の減としております。

補助費等については、魅力ある宿泊観光関連施設整備事業の新ホテル等整備事業補助金の増により4億3千万円(19.1%)の増、繰出金については、宿泊施設事業特別会計への繰出しの増加などにより、5千8百万円(5.4%)の増としております。

(主要施策)

それでは、令和2年度の主要施策について、第2次総合計画に掲げる7項目の施策体系ごとに、新規・拡充事業を中心に御説明いたします。

まず、1点目の、教育・文化部門である「人が育ち、輝くまち」についてでございます。

① 児童のストレス解消や避難所としての使用の観点から、小学校のトイレの洋式化を推進いたします。

(事業名：【新規】小学校トイレ改修事業) ※予算概要P26, 49

② より効果的な学力向上の取組に資するため、小学校全学年及び中学校1・2年生を対象に、学力調査を実施いたします。

(事業名：【新規】小中学校学力調査事業) ※予算概要P25, 48

③ 学校施設の維持管理等に係るトータルコストの縮減や費用の平準化を図るため、中長期的な長寿命化計画を策定いたします。

(事業名：【新規】学校施設長寿命化計画策定事業) ※予算概要P25, 49

④ 本物の芸術に触れる機会を提供するため、プロの音楽家による高水準のコンサートを開催いたします。

(事業名：【新規】ふれあいコンサート事業) ※予算概要P26, 50

- ⑤ ふるさと再発見事業の一環として、ふるさとの古写真を取りまとめた写真集を作成するとともに、民俗文化財を継承する活動に対する支援を実施いたします。

(事業名：【新規】ふるさと古写真集発行事業・民俗文化財継承事業)

※予算概要P26, 50, 51

次に、2点目の、産業・観光部門である「元気な産業・観光を生み出すまち」についてでございます。

- ① 本市の観光拠点となる新ホテルの建設・開業に向けた補助や温泉関連機器の整備を実施いたします。

(事業名：【新規】魅力ある宿泊観光関連施設整備事業) ※予算概要P28, 47

- ② 観光戦略チーム「一歩」の取組として、秋頃に、本市の魅力的な体験観光プログラムを博覧会形式で提供するイベントを開催いたします。

(事業名：【新規】「えたじまものがたり博覧会」等事業) ※予算概要P28, 45

- ③ 本市の自然環境や都市圏との近接性などの事業環境をPRするとともに、地域でのビジネス展開に向けた多様な企業ニーズに対して訴求力のある提案を行うことにより、先端デジタル技術を有する企業のサテライトオフィスの誘致を図ってまいります。

(事業名：【拡充】しごとの場創出事業) ※予算概要P28, 53

- ④ 近隣自治体と連携し、農水産物や加工品、直売所、農林水産体験などを紹介するガイドマップを作成いたします。

(事業名：【新規】農水産物のブランド化・PR・販路拡大事業) ※予算概要P27, 44

- ⑤ 広島県と連携し、オニオコゼやキジハタの稚魚の集中放流や魚の増殖場の整備により、水産資源の増大を図ってまいります。

(事業名：【拡充・継続】集中放流事業(県負担金)・漁場環境保全創造事業(県営))

※予算概要P28, 53

次に、3点目の、福祉・保健部門である「健康で安心して暮らせるまち」についてでございます。

- ① 快適で健やかな子育て環境を整えるため、子育て世代包括支援センター周辺に、遊具を備えた広場等を整備いたします。

(事業名：【新規】子育て世代包括支援センター周辺整備事業) ※予算概要P30, 43

- ② 妊産婦とその家族が安心できる出産や育児をサポートするため、助産師等によるアドバイスや個別訪問、産後の健康診査助成を実施いたします。

(事業名：【新規】妊産婦支援事業) ※予算概要P30, 44

- ③ 会員相互で子どもの一時的預かり等を実施するファミリーサポートセンターの開設に向け、預かり会員の必要な知識の習得を促進してまいります。

(事業名：【新規】ファミリーサポートセンター開設準備事業) ※予算概要P30, 43

- ④ 生活習慣病の発症を予防するため、健康相談や健康教育、運動の必要性を普及する人材を育成いたします。

(事業名：【継続】健康増進事業) ※予算概要P30

- ⑤ 地域における自主的な介護予防活動を支援するため、マイレージポイントの交付を実施いたします。

(事業名：【継続】地域介護予防活動支援事業～マイレージポイント付与～)

※予算概要P30

次に、4点目の、生活・環境部門である「生活と環境を守り、高めるまち」についてでございます。

- ① 本市の温室効果ガスの排出量を算定し、地球温暖化対策の実行計画を策定いたします。

(事業名：【拡充】第3次江田島市地球温暖化対策実行計画策定事業)

※予算概要P31, 52

- ② 景観及び環境悪化を招く海岸漂着ごみを回収・処理し、美しい海と海洋資源の保全を図ってまいります。

(事業名：【継続】海岸漂着物等清掃業務委託) ※予算概要P31

- ③ 里山林に親しんでいただくため、野登呂山(宇根山)と砲台山(三高山)をつなぐ登山道を開削いたします。

(事業名：【継続】里山林整備事業) ※予算概要P32

- ④ 下水道計画区域外の水洗化を促進するため、合併浄化槽の設置を支援いたします。

(事業名：【継続】合併浄化槽設置補助金) ※予算概要P31

次に、5点目の、安全・安心部門である「災害に強く、安心して暮らせるまち」についてでございます。

- ① 大規模災害時における事業所等の人的・物的資源の提供による防災協力体制を構築するため、防災活動への協力意欲を有する事業所等の登録制度を創設いたします。

(事業名：【新規】防災協力事業所登録事業) ※予算概要P33, 42

- ② 24時間体制で業務を行う消防の特性を活かし、消防署において、休日や夜間の住民票の写し等の交付を開始いたします。

(事業名：【新規】消防署での住民票等交付事業) ※予算概要34, 48

- ③ 災害時の被害軽減等を図るため、防災資材を補充・整備いたします。

(事業名：【継続】防災資材購入事業) ※予算概要33

- ④ 災害に強いまちづくりを推進するため、防災関係機関等が連携し、総合防災訓練を実施いたします。

(事業名：【継続】防災訓練事業) ※予算概要P33

- ⑤ 災害の未然防止を図るため、各ポンプ場に監視カメラを設置いたします。

(事業名：【新規】排水施設遠隔監視装置整備事業) ※予算概要P34, 45

次に、6点目の基盤部門である「しっかりとした基盤を備えたまち」についてでございます。

- ① 沖美地区の港湾施設と地域交流拠点の充実を図るため、三高港ターミナルと三高交流プラザの一体的整備及び周辺整備等を実施いたします。

(事業名：【拡充】三高地区整備事業) ※予算概要P36, 53

- ② 施設の適正な維持管理を図るため、中町雨水排水センターの修繕・改築工事を実施いたします。

(事業名：【新規】中町雨水排水センター更新事業) ※予算概要P36, 47

- ③ 「公共施設のあり方に関する基本方針」に基づき、地域の公共施設の再編整備を実施いたします。

(事業名：【継続】公共施設再編整備事業) ※予算概要P35

- ④ 空き家の活用を促進するため、市が空き家を借り上げ、改修したのちに貸し出す取り組みを実施いたします。

(事業名：【継続】空き家活用モデル事業) ※予算概要P36

次に、7点目の地域部門である「地域が元気で、にぎやかなまち」等についてでございます。

- ① 来訪や居住など、本市との「縁」がある方を掘り起こし、関係性を深めるための応援組織を結成いたします。

(事業名：【新規】江田島市応援隊事業) ※予算概要P37, 41

- ② 視覚障害のある方や日本語の読み下しが困難な外国人市民などが市広報誌で情報を取得できるよう、読み上げ機能や多言語化機能を持つデジタルブック閲覧アプリを導入いたします。

(事業名：【新規】広報誌等デジタルブック化事業) ※予算概要P38, 41

- ③ 「協働のまちづくり」の更なる活性化を図るため、地域や市民団体が主体となって取り組むまちづくり活動を支援いたします。

(事業名：【継続】まちづくり団体支援補助金) ※予算概要P37

- ④ 都市部在住の意欲ある人材を地域おこし協力隊として登用し、地域の課題解決や活性化を図ってまいります。

(事業名：【継続】地域おこし協力隊事業) ※予算概要P38

- ⑤ 多文化共生社会の実現を図るため、外国人市民との交流イベントなどを実施いたします。

(事業名：【継続】外国人市民交流事業) ※予算概要P38

最後に、企業会計についてでございます。

- 水道事業については、広島県及び県内市町と連携し、水道事業の広域化を促進するとともに、水道施設の耐震化等の整備を実施し、安全でおいしい水の安定供給を図ります。

(事業名：水道事業) ※予算概要P36

- 下水道事業については、持続的・効率的な施設の更新改築や維持管理などに努め、生活環境の改善や水環境の保全を図ってまいります。

(事業名：下水道事業) ※予算概要P36

なお、職員の知見を高め、多面的な思考力を養うため、職員研修や県・他市町との人材交流に引き続き取り組み、市の組織力の向上を図ってまいります。

中国の故事成語に「愚公（ぐこう）山を移す」という言葉がございます。

これは、愚公という老人が、交通の妨げになる険しい山を削って平らにしようとしたところ、「無理だ」と言う人があったため、「自分の代で成し遂げられなくても、自分には子や孫がいる。しかし山が増えることはない。どうして平らにできないことがあるか。」と答えたという故事によるものでございます。

我々は、先達から受け継いできたふるさと江田島市を、子や孫に引き継いでいく使命がございます。

愚公のように、次世代、その次の世代に残すべき暮らしの姿を見据え、それを築くために今できる最善の努力を尽くすことを申し上げ、新年度の予算説明とさせていただきます。